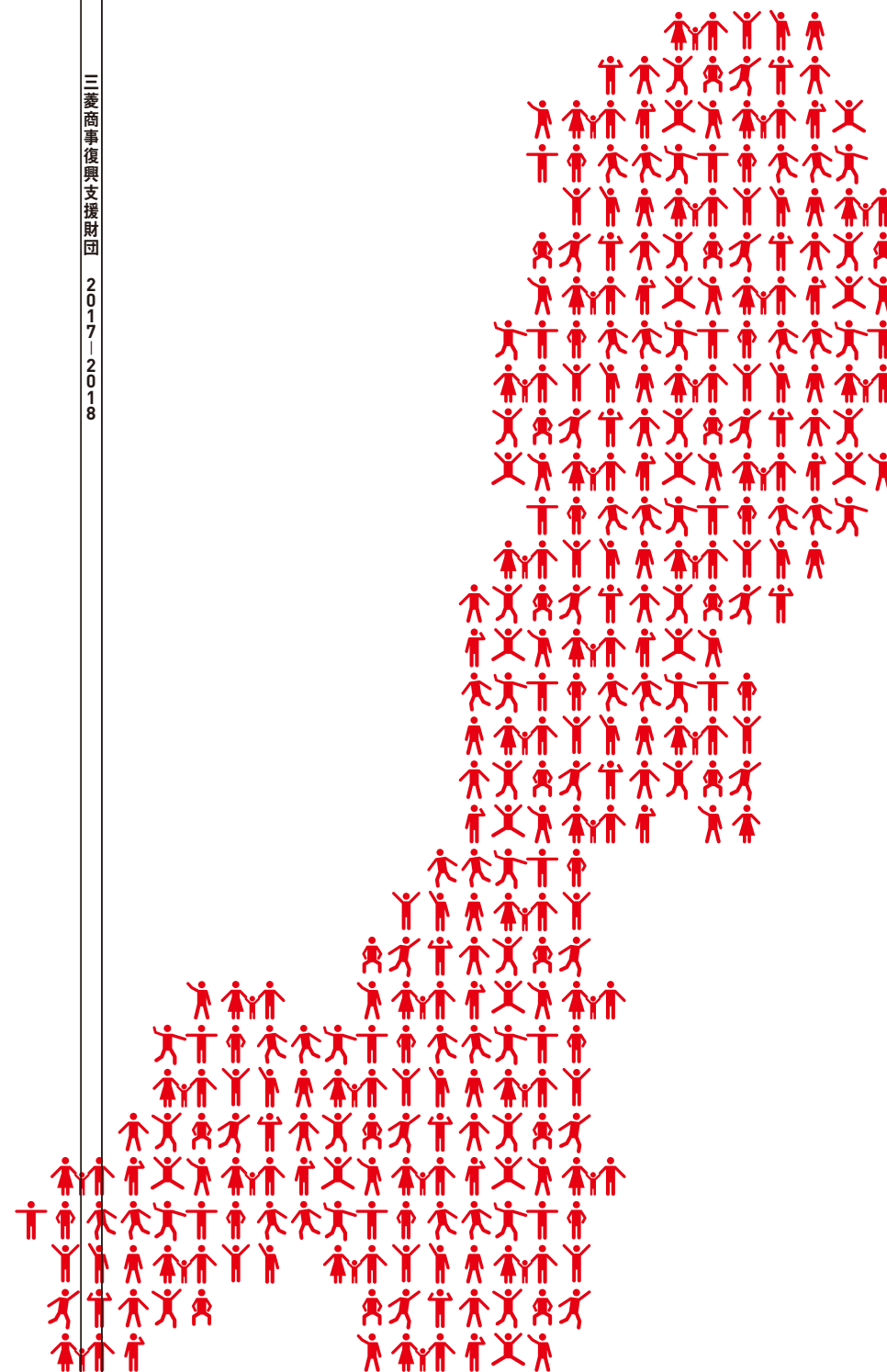




希望のいしずえ

三菱商事復興支援財団
2017-2018



三菱商事復興支援財団

2017-2018

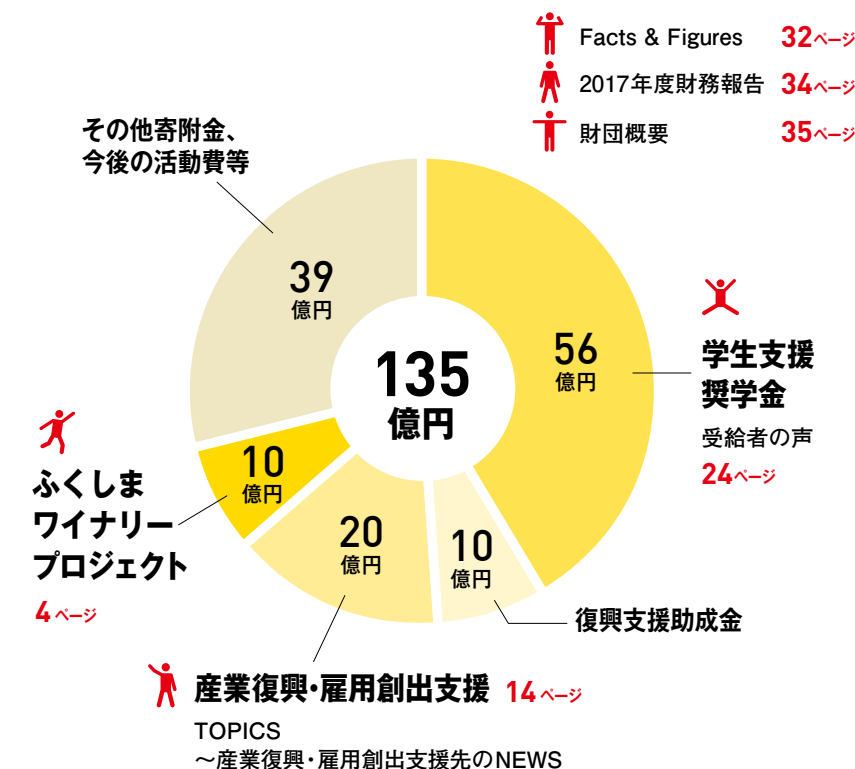
希望のいしずえ

— この言葉に込めた私たちの願い —

この冊子は三菱商事復興支援財団の2017～18年の活動報告です。当財団では、被災地の事業者を対象とした産業復興・雇用創出に対する支援、大学生への奨学金の支給、被災地で活動するNPOなどへの助成を行ってきました。2015年度からは、福島県で果樹農業の6次産業化を支援するためのプロジェクト（ふくしまワイナリープロジェクト）を開始しています。これらの活動は、被災地の未来を担う若者や、被災地の継続的な復興、経済再生の基礎となる地域産業への、いわば“被災地の未来に対する投資”。「希望のいしずえ」という言葉には、当財団による支援が被災地での希望を生む根幹になってほしいという願いを込めています。

三菱商事復興支援財団の活動

三菱商事は、2011年3月11日の東日本大震災の復興支援活動のため4年間総額100億円の復興支援基金を創設し、被災した地域の状況やニーズに合わせてさまざまな活動を展開してきました。2012年春には当財団を設立し、被災地の産業復興・雇用創出を目的とした支援を継続しています。2015年度からは5年間分の活動資金として、当財団に対し35億円を追加拠出しました。従来の活動を継続するとともに、福島県郡山市で新たに果樹農業の6次化を支援するワイナリープロジェクトを推進しています。



※ グラフは復興支援基金（三菱商事）の活動を含めた概算の金額

ふくしまワイナリープロジェクト

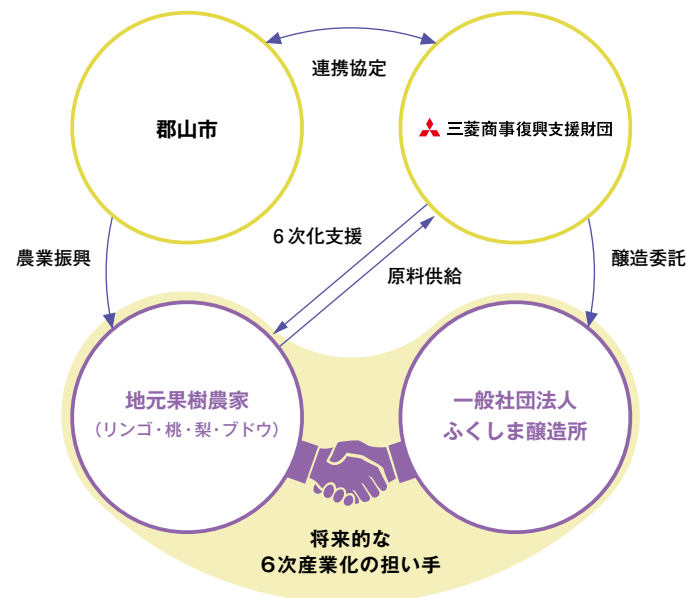


～果樹農業の6次産業化を支援～

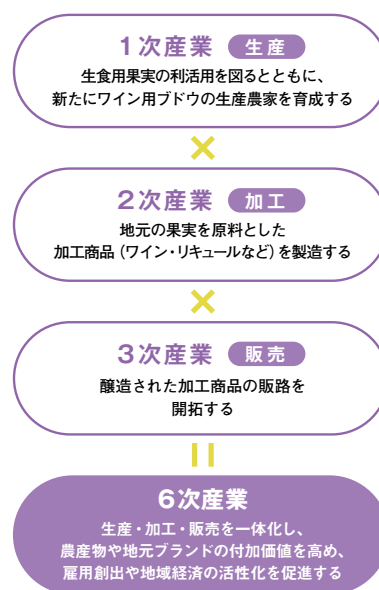
当財団は2015年より、福島県の果樹農業の6次産業化を支援する「ふくしまワイナリープロジェクト」に取り組んでいます。2018年秋、プロジェクト発足直後に植えたワイン用ブドウが実りの時を迎え、郡山市逢瀬町の「ふくしま逢瀬ワイナリー」では、郡山産ワインの醸造が始まりました。

ふくしまワイナリープロジェクトは、福島県の特産品である果物の生産から加工、販売までを一体的に運営する新たな事業モデルを構築し、農産物や地元ブランドの付加価値向上を目指すもの。福島県産のリンゴや桃、梨、ブドウを原料に、ふくしま逢瀬ワイナリーでワインやリキュールなどを生産する一方、新たにワイン用ブドウの生産を開始する農家を支援していきます。

●事業の全体像



●6次産業化モデルの確立へ



ワイン用ブドウの 初収穫を迎えました！



郡山産ワイン 醸造開始！

郡山産ワインの醸造がいよいよスタート。農家や郡山市の方々をはじめ、プロジェクトを共に推進してきた皆さんの努力が実を結ぼうとしています。



当財団と2015年に連携協定を締結し、ふくしまワイナリープロジェクトに共に取り組む福島県郡山市は、ワイン用ブドウの栽培に対し補助事業を実施。『郡山地域果実醸造研究会』を発足し、ふくしま逢瀬ワイナリーのセミナールームでの定期勉強会などの活動を行いながら、ワインの産地づくりを目指しています。

ワイン用ブドウ生産農家 農家の夢のワイン

2015年に、何も分からないまま、初めてワイン用ブドウの苗木を植えてから丸3年が経過しました。「生食用のブドウより、病気に弱い」と聞いていましたが、昨年は、市の助成金を利用し雨よけを設置することでもでき、何とか順調に収穫を迎えることができました。「いつできるのか」と郡山産ワインへの期待は高まる一方。初出荷されるワインがどんな個性を見せてくれるのか、今から楽しみです。いいワインには、いいブドウが不可欠。良いものができるよう、引き続き丹精込めて育てていきます。



ブドウ農家
中尾 英明さん

ワイン × 地域づくり

産学連携の取り組み

食農学類新設が予定されている福島大学で「地域論」の一環として、3回にわたってワインを通じた地域づくりに関する提供講座を実施しました。第1回は日本ソムリエ協会の田崎真也会長が約300人の学生に対し、ワインの魅力や楽しみ方、土地の食文化と酒の結び付き方などについて講義。第2回は、ふくしま逢瀬ワイナリーの佐々木醸造責任者が登壇しました。



農家をしっかりサポートしていきます

「郡山でワイン用ブドウ生産をする」と初めて聞いた時は、「ホントに大丈夫なのか？」というのが本音でした。しかし、生産担当となったからには、何とか成功させたいとの思いが強くなり、ワインの情報をいろいろと集めるようになりました。また、各地のワイン用ブドウ生産の状況を調査したり、携わっている方々とお会いするうちに、自分の中で「ワインの世界」が広がってきました。今年、郡山市産ブドウの初収穫を迎えました。農家の皆さんは暑い中での作業もあり、大変だったと思います。良いブドウを生産いただくために、今後も引き続き農家の皆さんをサポートしていきます。



郡山市農林部園芸畜産振興課
主任技査兼園芸推進係
係長
大和田 裕一さん

ワインの産地づくりを目指して 郡山市のサポート



食の王国福島・郡山の新しい姿を

「震災は不幸な出来事。しかし、震災によって生まれた縁もある。必ずや実を結び、震災前よりも素晴らしい福島を実現したい」初めてブドウの生産に取り組む生産者は意気込んでいました。あれから、4年。市民の皆さんがお酒を話題にするときは、郡山産ワインと、それに合う料理は何かと想像して楽しんでますね。市民の期待は日ごとに高まっていると感じます。私たちは、この機会に、地域の宝である「食と農」に磨きを掛け、郡山で育まれた食材が郡山産ワインで融合される時を大切にしていきたいと思ひます。果樹農業6次産業化プロジェクトが、食の王国福島・郡山の新しい姿を映し出します。ご期待ください。



郡山市農林部園芸畜産振興課
主任主査兼6次化・輸出推進係
係長
若穂園 豊さん



福島大学の則藤孝志先生（右から3人目）とゼミの学生の皆さん

福島大学経済経営学類 則藤 孝志^{准教授}

2019年4月、食と農、地域を一体的に学び、研究する拠点として、福島大学食農学類がオープンします。ふくしま逢瀬ワイナリーをはじめとする「ワイン×地域づくり」に食農学類はどのような役割を果たすべきでしょうか。まずは学術研究です。醸造用ブドウの栽培（農業生産学）から環境・土壌づくり（生産環境学）、ワイン醸造（食品科学）、ワイナリー経営（農業経営学）に至る全体を研究面で支えます。もう一つは地域との協働です。学生・教員が地域に通って現場の方々と一緒になって課題に取り組んでいきます。まさにわれわれも「ワインの地域づくり」の一員となることです。

集い、つなぎ、広がる場所へ

2016年冬にワインショップがオープンしたふくしま逢瀬ワイナリー。2017年度には初めてイベントを開催し、2017年度末までに1万人を超えるお客さまにワイナリーにご来場いただき、ワイナリーを中心とするつながりの輪が広がっています。



「ふくしまワイナリーフェス」

2017年10月に開催したふくしまワイナリーフェスは、福島ワインを広めようと企画したもの。いわき市と二本松市のワイナリーも参加し、約300人が来場。福島県産の商品の試飲・即売会や、醸造所内と実証圃場の見学ツアーを実施しました。



実証圃場、醸造所の見学ツアー

「ふくしま逢瀬ワイナリーマルシェ」

2017年9月、郡山市主催のイベント「ふくしま逢瀬ワイナリーマルシェ」を開催。2019年から販売開始予定の郡山産ワインに期待と親しみを持っていただくとともに、農家と消費者をつなごうと企画したもので、約4,000人が来場。旬の野菜や加工品を購入したり、イタリア料理店、酒蔵などのブースで多彩な味を楽しんだり、ワインの飲み比べが催されました。



飲み比べ講座「ワイン用ブドウ4大品種の比較試飲」



ワイン講座「ワインの謎解き」



イタリアンやスペインバルといった郡山市内の飲食店や、窯焼きピザ、スーヴなどの他、近隣の酒蔵、カフェも出店



ふくしま 逢瀬ワイナリーに お越しください!



- ロゴマークは果物と種と、アルコールが発酵する形を表現しています。
- ワイナリーの地元「逢瀬：OUSE」の「O」でもあります。
- 福島県の地形もイメージし、中の丸は猪苗代湖を表しています。



販売 スタッフ

ワイナリーにいらっしゃるお客さまと接する中で、日に日に郡山産のワインへの期待が膨らんでいることを感じています。私自身も初の郡山産ワインを飲める日を楽しみにしています。



金子 文子さん

生まれも育ちも郡山の私。郡山で育ったおいしいワインをこれからもっとたくさんの方々に味わっていただきたいです。頑張ります。



倉渕 貴子さん

醸造家



佐々木 宏さん

おかげさまで、CIDRE 2016が国際コンテストの賞を頂きました。ひとえに原料の福島県産のリンゴの品質や味が評価されたものと思っています。今後も、農家の皆さんと共に、福島の果実の魅力を積極的に発信していきます



田口 智之さん

秋田で17年間ワイン造りに取り組んできました。福島の果物は素晴らしいものばかり。まだワインの生産量は多くありませんが、大きなポテンシャルを秘めていると思います。果物の力を活かすよう、丹精込めてお酒造りに励みたいと思います

TOPICS



「MUSCAT BAILEY A ROSE 2017」のラベルに採用された金丸さんの作品「結 (ゆい)」



「アトラベルシリーズ」

アーティストを目指す方々を応援するため、ふくしま逢瀬ワイナリーではアトラベルシリーズを展開しています。「MUSCAT BAILEY A ROSE 2017」と「CIDRE 2017」では、「三菱商事アート・ゲート・プログラム」の奨学生である、金丸実華子さんのオリジナル画を使用しています。



写真提供：JR 東日本

「TRAIN SUITE 四季島」に採用

「CIDRE 2016」は、JR 東日本が運行するクルーズトレイン「TRAIN SUITE 四季島」でランチタイムに提供されるドリンクとして採用されています。



金丸 実華子さん

ワイナリーと農園を、カラフルなブドウに見立てました。実がつながるようにも広がるようにも見えます。型にはまることなく、お互いが影響し合い、良い方へと色や形を変えていくさまで。このプロジェクトがもっと多くの人に広まるようにと、想いを込めて構成しました。

ふるさと納税

郡山市のふるさと納税に寄付した方への返礼品の一つとして、ふくしま逢瀬ワイナリーの商品も採用されています。2017年度は2万円以上の寄付者に、シードル（フルボトル2本またはハーフボトル3本）とリキュール（桃と梨の2本）のいずれかを選んでいただき、送られました。



農福連携の取り組み

製造作業では、農福連携の取り組みの一環として、郡山市内にある福祉法人（あさかホスピタルグループのNPO 法人アイ・キャン）の方々に補助いただいています。



NPO 法人 アイ・キャン
高橋 管理者

おかげさまでワイナリーの方々にも頼りにしていただけるようになってきました。今の形をしっかりと維持しながら、これからワイナリーの生産量が増えていく際にも、地域の中の福祉活動の一つとして関わっていきたいと思っています。

ふくしま逢瀬ワイナリーの 商品ラインアップ

拡充中!

2016年にふくしま逢瀬ワイナリーの第一弾の商品として、ロゼのスパークリングワイン「MUSCAT BAILEY A ROSE 2015」とシードル「CIDRE 2015」を出荷。その後、梨のリキュール「OUSE POIRE JAPONAISE」、桃のリキュール「OUSE PECHE」の生産を開始し、2017年にはリンゴのリキュール「OUSE POMME」を発売しました。この秋には郡山産ワインの醸造も始まり、順調に商品ラインナップを拡充しています。「CIDRE 2016」が国際コンテストで受賞するなど、嬉しいニュースも入ってきました。

リキュール

福島県産の果実を
発酵・蒸留した
フルーツブランデーが
ベースのお酒

OUSE POIRE JAPONAISE

福島県産の梨
「幸水」と
「豊水」が原料の
リキュール。

OUSE PECHE

福島県産の桃
「あかつき」が原料の
リキュール。

NEW

OUSE POMME

福島県産のリンゴ
「ふじ」が原料の
リキュール。

OUSE WINERY
Fukushima

商品ラインアップ



国際コンテストで銅賞受賞

「CIDRE 2016」が、「International Cider Challenge (インターナショナルサイダーチャレンジ) 2018」において銅賞を受賞しました。このコンテストは、今年で9年目を迎える英国で開催されるシードルに特化した国際品評会で、ふくしま逢瀬ワイナリーは初出品での受賞となりました。

果樹園やまと 阿部 幸弘さん(福島市)

今回の受賞は当然の結果だと思っています。なぜなら、最高の原料と最高の技術で造った作品だからです。また、一方では、世界中を見渡せばさらに上がることを知り、これから私たちの進むべき方向を知ることでもできました。目指すのは、もちろん、世界最高峰です。財団のサポートの下、この活動に参加できることに大いなる喜びとやりがいを感じています。

リンゴから造った
スパークリングワイン

シードル

CIDRE 2016

福島県産のリンゴ
「ふじ」を100%使用。
農家が丹精込めて作った
ふじの実と皮と果汁を
一緒に低温発酵した
シードルです。

スパークリング ワイン

MUSCAT BAILEY A ROSE 2017

日本固有のブドウ品種
「マスカット・ベリー A」を
100%使い、低温発酵した
スパークリング
ワインです。



産業復興・雇用創出支援

当財団では、被災地の経済再生に向け、産業復興や雇用創出に寄与する取り組みを展開してきました。岩手県、宮城県、福島県の金融機関などと協働し、これまでに事業の再建や新規事業立ち上げを目指す、51の事業者への投融資を実施しています。2017年度の各事業者のトピックスを紹介します。

被災地の未来に対する投資

産業復興・雇用創出における分野では、金融支援（投融資）による活動を行っています。これは返さなくてはならないお金であるが故に生まれる適度な緊張感が、事業の継続を支えていくことに資すると考えたからです。ただし、通常の融資とは一線を画し、最長10年間、事業が軌道に乗るまでは元本や利子の支払いは発生せず、利益が実現した場合には、その一部を利益分配金として受領する仕組みとしています。この分配金は財団内部には留保せず、地元自治体や他の復興支援の基金等に寄附することや、被災地での復興支援活動に再利用することを基本方針としています。復興支援基金が被災地で循環する仕組みを整え、地域経済のさらなる自立促進を目指しています。



● ラポールヘア・グループ



● 駅前ストアー



● ひろの屋



● 大地フーズ



● 協同水産



● 伊藤商店



● 仙台秋保醸造所



● 及新



● 南三陸町社会福祉協議会



● 小高ワークスペース



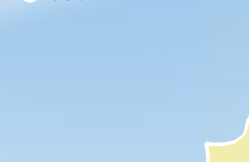
● 海楽荘



● キャピタルホテル1000



● 八木澤商店



● 山元町



● 会津中央乳業



● IIE



● 相馬市



● 浪江町



● 什一屋



● 白河市



● いわき市





『ミガキイチゴ』は「食べる宝石」がコンセプト。自社栽培のイチゴを100%使用したスパークリングワインにも取り組む。左は同社の栽培施設

『ミガキイチゴ』が国内外で高い評価

GRA

東北の食産業で、東日本大震災以降、最も注目を集めたブランドを決める第1回「東の食のブランド・アワード」で、GRAの『ミガキイチゴ』がグランプリに選ばれました。職人の技とITを融合させ、味わい深いイチゴを安定生産し、海外へも輸出している点が評価されました。また同社は、2018年3月、韓国の全羅南道農業技術院などと、連携に関わる覚書を結びました。ITを活用した果物や野菜の栽培について、日韓双方の情報交換や技術交流などを進めていく考えです。

「アバッセ高田」にカフェをオープン

八木澤商店

2017年4月、岩手県陸前高田市のかさ上げ地区で初めて開業した大型複合商業施設「アバッセ高田」に、「やざさわカフェ」をオープンしました。また10月には、岩手県味噌醤油工業協同組合加盟の4社と共に、高級しょうゆ「互醬丸」を発売。岩手県産の大豆と小麦を原料に、全国初という県オリジナルのしょうゆ用麹「南部もやし」を使い、豊かな香りと深く甘い味わいに仕上げました。



店内の様子



アバッセ高田



「氷の水族館」が再開

気仙沼産業センター

2017年4月29日、津波被害で休館していた「氷の水族館」を観光施設「海の市」1階で再開しました。同館は、2002年オープン。気仙沼漁港で水揚げされた魚介類46種類、約600匹を氷漬けにし、氷点下20℃の冷凍庫で展示するもの。新たにプロジェクションマッピングなどの演出を導入しました。



「氷の水族館」。広さ約150㎡で、見学に当たっては防寒着を身に着ける

仙台ロフトの催事に参加

小高ワークスペース／IIE／GRA

2017年5月2日から1カ月間、仙台ロフトで催事「Find New TOHOKU」が開催され、財団支援先の小高ワークスペース、IIE、GRAの3社が商品販売しました。



店頭の様子



コンサートの様子

各種イベントを展開

キャピタルホテル1000

2017年10月、「西村由紀江ピアノコンサート」が開催されました。西村さんは震災直後から、ピアノを失った被災者に対し譲り受けたピアノを届ける「Smile Piano 500」を続けており、聴衆約150人が優しく心に響くピアノの音色に聞き入りました。また2018年1月、岩手県陸前高田市の酔仙酒造の酒を堪能する「酔仙の夕べ」を開催。また2月には、「第10回くずまきワインパーティー in 陸前高田」を行いました。



「里山カフェ」をオープン

いちばん星

2017年7月6日、「里山カフェ」開店披露式を開催しました。メインバンクのあぶくま信用金庫常務理事をはじめ、関係者12人が出席。財団支援先の南相馬復興アグリトマトジュースで乾杯し、完成を祝いました。

「里山カフェ」外観。
左写真は星代表

日本初のシードル 国際コンクールで受賞ほか 仙台秋保醸造所

日本で初めてとなるシードルの国際コンクール「フジ・シードル・チャレンジ」が開催され、約40カ国からの応募商品の中、秋保ワイナリーの甘口（宮城県産ふじを100%使用）が銀賞、辛口（宮城県が開発したサワールージュと、ジョナゴールドとふじをブレンド）が銅賞を受賞しました。また、2017年8月から、宮城県内で増えつつあるワイン造りの担い手を支えようと、醸造や経営の専門家がノウハウを伝授するプロジェクトを秋保ワイナリーで開始しました。第1回セミナーには、南三陸町、大和町、栗原市でブドウ栽培を開始した3団体が参加しました。



受賞したシードルの甘口（手前右）と辛口（手前左）



パスタソースを発売

あすびと福島

南相馬のトマトをレトルト化したパスタソースを、2017年8月に発売しました。Jヴィレッジに以前勤務していた、サッカー日本代表専属シェフの西芳照氏に協力いただき、サッカー日本代表選手が食べているトマトパスタと同じソースを商品化しました。





オープンに合わせ限定販売した、会津木綿の代表的ブランド「青木木綿」を使用したストール

「IIE Lab.」をスタート

IIE

2017年10月、会津木綿を製造する工場と商品を販売する店舗を組み合わせた「IIE Lab. (イーラボ)」をオープンしました。幼稚園跡を利用した従来の店舗と事務所を、会津木綿をより身近に感じてもらうと、作業工程や織機の見学などができるよう改装しました。

「地域再生大賞」のブロック賞受賞

小高ワークスペース

第8回「地域再生大賞」のブロック賞を受賞しました。同賞は、地域づくりに挑む団体を支援しようと、共同通信と地方新聞46社が設けたもの。地域のモデルとなる活動として評価されました。また同社は、「第3回ふくしま経済・産業・ものづくり賞」の特別賞も受賞しています。



小高区に出店したスーパー。左は財団資金を活用して開設したガラス細工工房

岩手県知事賞を受賞

ひろの屋

2017年12月、静岡県立大学・地域経営研究センターが定期開催するビジネスセミナーで、下学坪社長が、「逆風を力に変えるマーケティング～三陸の復興チャレンジから学ぶ」をテーマに講演しました。

また、同社の「北三陸ファクトリーキッチン 天然自生わかめ炊き込みご飯のもと」は、2017年度の復興シーフードショー IWATEの水産加工品コンクールで、岩手県知事賞を受賞しています。



プレゼンテーションする下学坪社長



「天然自生わかめ炊き込みご飯のもと」

『QUESTREL-SWOOD』がウッドデザイン賞受賞

セッションナブル

宮城県内の優れた工業製品を表彰する第10回「みやぎ優れMONO」認定式で、セッションナブルのエレキギター『QUESTREL-SWOOD』が新たに認定されました。気仙大工の技術を活かし、また新合金を使用した点などが、他社と差別化できるとして評価されました。同商品は、第3回「JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2017」(林野庁補助事業)でウッドデザイン賞も受賞しています。



日本刀をテーマに研ぎ澄まされたフォルムを実現





海藻など地産の素材を活用した「インテリア用せっけん」の販路開拓に取り組む



プレゼンテーションする厨社長

「TOHOKU ACCELERATOR DEMO DAY」に登壇

アイローカル

2018年2月、宮城県仙台市が「TOHOKU ACCELERATOR DEMO DAY」を開催し、厨社長がゲストスピーカーの一人として登壇しました。仙台市では、地域課題を解決し、社会を変える事業を生み出すことを目的に、起業家の成長を加速させる集中支援プログラム「東北アクセラレーター」を実施してきましたが、その成果を発表しました。



調印式の様子



スタッフが安心して働くことができるよう、ラポールの店舗にはキッズルームが併設されているのが特長の一つ

ベトナムの理美容業界に貢献

ラポールヘア・グループ

同社は、JETROの「社会課題解決型ルール形成支援プロジェクト」の一環として、「ベトナムにおける理美容開業にあたっての公衆衛生基準制度および理美容従事者の資格制度導入」事業を進めています。3月21日、ベトナム・ハノイ市内において、現地理美容経営者約300名を集めたフォーラムを主催しました。早瀬社長のプレゼンテーションの他、政府関係者の講演なども行われ、またベトナム理美容協会との制度設計に関する覚書の調印式も執り行われました。

経済産業省「地域未来牽引企業」に選定

ひろの屋／アイローカル
仙台秋保醸造所／桃浦かき生産者
GRA／ラポールヘア・グループ

2017年12月、当財団の支援先6事業者が、経済産業省「地域未来牽引企業」に選ばれました。「地域未来牽引企業」は、全国で2,148社選定されており、地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の経済成長を力強く牽引していくことが期待されています。



地域未来牽引企業

経済産業省「地域未来牽引企業」

東京都目黒区に売電

気仙沼地域エネルギー開発

東京都目黒区に小売電気事業者を経由して売電することを決定。区が購入する33施設分の年間消費電力量は236万kw時。使用する施設は、目黒さんま祭の会場施設や、気仙沼市へ自然宿泊体験に出掛けている小中学校など。区は状況を見て購入量を今後増やしていく考えです。



プラント外観

学生支援奨学金制度

受給者の声

当財団では、被災により修学が困難となった学生を支援するため、学生支援奨学金制度を設けています。国内の大学生を対象に、2017年度は155人に支給（1年間）。2011年度からの累計で4,884人に奨学金を給付しました。夢の実現に向かって進む、奨学生の声を紹介します。

生命を守る人の環境を整備し、 一つでも多くの命を！

茨城県日立市
2015年3月卒業
佐藤 旭美さん



震災が起きたのは、大学に入学する約1カ月前でした。実家は、半壊となり、当初は大きなショックを受けたことを今でも鮮明に覚えています。4人兄弟ということもあり、両親に経済的な負担をかけたくないという思いから、一時は、地元にとどまることも考えました。そんな中、三菱商事復興支援財団の支援を受けることができ、大学に通い続けることができました。本当に感謝しています。

在学中は、体育教員の資格取得に励む一方で、海外ボランティアで貧しい子どもたちに体を動かすことの大切さを伝える活動を行いました。学校に通えない子どもたち、食事や着る服もままならない子どもたちの姿を目の当たりにし、この時から“教育”よりも“医療”、“福祉”の仕事を通して、人の役に立つ仕事がしたいという気持ちが強くなりました。

現在は、医療経営コンサルタントの総合職として、全国にある病院の再整備事業の支援業務を行っています。生命を守る人の環境づくりを行うことが、一つでも多くの命を救うことにつながっていると考えます。今後は、三菱商事復興支援財団に支援していただいたご恩やたくさんの人々に支えられてきた感謝を忘れず、多くの人々に貢献できる人材になれるよう日々、精進してまいりたいと思います。



海外でのボランティア



研究者として、 社会課題の解決を 発信していきたい

宮城県仙台市
2013年3月卒業
海老澤 侑さん



大学2年生の終わり、東日本大震災を経験し、仙台市にある実家と親戚宅が津波被害を受けました。当時、大学には奨学金を借りつつ通っており、また司法試験合格を目指して勉強していました。ですが、家族、親戚の経済的事情も絡み、司法試験合格のみならず、大学卒業を諦めた上で、すぐに就職をする必要に迫られた状況に陥ることになってしまいます。このように将来の見通しが立たない中、三菱商事復興支援財団の奨学金を受給できたのは、大変ありがたいことであり、これにより大学卒

業までの金銭面の負担は大きく改善されました。

現在は、司法試験の勉強からは離れて、大学院に進学、刑事法の研究者を目指して日々勉強を続けています。現在のような人生を歩めるようになったのも、財団から奨学金を頂き、自分の将来に向けての選択肢を増やせたことが、きっかけの一つにあります。今後研究者として、種々の問題解決を社会に発信し続けることが、財団への恩返しになると考えています。あの震災の経験を胸に秘めつつ、これからも研究を続けていきたいと思っています。



福島県郡山市
2017年3月卒業
吉田 優仁果さん

薬剤師として、努力の日々

福島県の高校を卒業後、大学の入学式を目の前にして東日本大震災が起こりました。実家の壁に入った亀裂を見るたびに、あの日のことを今でも鮮明に思い出します。

6年制大学に通おうとしていた矢先でしたので、経済的に不安を抱えていましたが、三菱商事復興支援財団の支援を受けることで勉学に打ち込むことができました。

現在は薬剤師として調剤薬局で働いています。患者さまに安心して薬を飲んでいただけるよう、精いっぱい努力を重ねる日々です。加速する超高齢化社会において求められるであろう薬剤師の使命を全うするため、今後も精進していこうと思います。



東北の方々に、 健康な暮らしを



岩手県田野畑村
2015年3月卒業
長久保 諒輔さん

大学卒業後、製薬メーカーで医薬情報担当者として業務に励んでいます。日々医学・薬学知識を向上させ、情報提供を通じて医療従事者や患者の皆さまに貢献できる点にやりがいを感じています。将来的には、生まれ育った東北地方に転勤し、医薬情報担当者として地元の方々の健康で快適な暮らしに貢献したいです。

大学を休学することなく4年間で無事卒業し、今このように充実した生活を送れているのも三菱商事復興支援財団の奨学金の支援があったからこそだと考えています。

今後私は一社会人として責任感を持って行動し、社会に、東北に、また奨学金を頂きました三菱商事復興支援財団に対し、何らかの形で恩返しをしていければと考えています。

人に寄り添い、人のために

震災当時は住んでいた家が全壊し、どうなるか不安になっていましたが、無事大学に進学しました。その際に、三菱商事復興支援財団の支援により、不安なく充実した大学生活を送ることができました。

現在は大学院に進学しつつ、高校で教員をしています。大学時代にじっくり勉強する時間があったからこそ、大学院の研究を楽しむことができていますし、明確な目標を持ちながら日々充実した生活を送ることができています。大学院修了後は、人に寄り添い、人のために何ができるかを考えつつ、仕事をしていきます。



宮城県仙台市
2017年3月卒業
鹿 直斗さん

東北の電力基盤を支える仕事

東日本大震災では実家が床上浸水しました。私は東京で大学に通っており、両親とはしばらくの間連絡が取れず、自分の学業や将来はおろか両親の生死も分からない状態で数日を過ごしていました。幸い家族に犠牲者はなく、その後は実家の修理や家財の手配など生活再建のための日々を送ることになりましたが、その中で親戚が三菱商事復興支援財団の支援を見つけ、私に教えてくれました。ありがたく3年間も支援を受けることができ、両親の負担を減らして学業を継続することができました。心から感謝しています。

私が頂いた奨学金は被災地復興への支援であることを感じて、広く東北の基盤を支える仕事へ就きたいと考え、卒業後は東北電力に就職しました。震災を乗り越えた地元の電力会社の一員として、地域の皆さまと共に失われた灯りを取り戻し、さらに明るくしていくお手伝いができれば、それが頂いた支援への恩返しになると思っています。

私が頂いた奨学金は被災地復興への支援であることを感じて、広く東北の基盤を支える仕事へ就きたいと考え、卒業後は東北電力に就職しました。震災を乗り越えた地元の電力会社の一員として、地域の皆さまと共に失われた灯りを取り戻し、さらに明るくしていくお手伝いができれば、それが頂いた支援への恩返しになると思っています。



宮城県東松島市
2013年3月卒業
佐々木 達彦さん



宮城県仙台市
2014年3月卒業
會田 瑞樹さん

芸術の持つ力を信じて

震災から7年。都市の復興は続く。たくさんの新しいものに囲まれていく。それでも自問自答する。2011年3月11日の14時45分まで考えていた、あの精神の復興が果たしているのだろうか。音楽をすること、「演奏会」を開催すること。音楽とは、社会に真に必要なものなのか自らに問い掛け続ける。芸術家として身を立てていく以上、その現実から目を背けることはできないと僕は思う。過去は消えることのない痛みとして残る。しかし、明日はもっとより良い明日になり得るかもしれない。だからこそ、芸術の持つ力を信じたい。

打楽器演奏家としてさまざまな場所で演奏を重ね、模索する日々が続いている。

打楽器演奏家としてさまざまな場所で演奏を重ね、模索する日々が続いている。



「ラ・フォル・ジュルネTOKYO 2018」で演奏

中国・北京での演奏の様子

学生支援奨学金制度

お菓子を通じて、 人と人とのつながりを



お菓子の調理講習会の様子

宮城県仙台市
2013年3月卒業
佐藤 聖哉さん

東日本大震災により、宮城県仙台市にある実家が半壊し、本吉郡南三陸町にある祖母の家がなくなりました。当時大学生だった私は、その光景を目の当たりにし、とてつもないショックを受けました。一時は大学中退も考えましたが、三菱商事復興支援財団のおかげで両親の負担が減り、大学を卒業することができました。本当にありがとうございます。

現在は、震災を通じて感じた「食」の大切さを、より多くの人に知ってもらうために食品菓子メーカーで仕事をしています。今後も「食べ物の大切さやありがたさ」、「お菓子を通じた人と人とのつながり」を皆さんに届けていきたいと思っています!!



実家で祖母らと共に



日々笑顔で『おもてなし』



宮城県仙台市
2017年3月卒業
佐藤 映さん



成田空港のチェックインカウンターでの接客の様子

東日本大震災で宮城県にある実家ならびに父の会社などが被災し、祖父母の介護も重なり、家族の生活も一変してしまいました。

震災時には先の見えない不安な生活の中、国内外の方々から多くのご支援を頂き、人と人とのつながりの大切さや、私自身も人の役に立ちたいという思いが強くなりました。そのための学習の必要性を感じ、厳しい状況の中ではありましたが、県外への進学を決めました。大学時代には国際コミュニケーションや日本語教員養成課程の取得、児童英語、航空関係の授業を

受講し、留学生のサポートも数多く経験しました。三菱商事復興支援財団の奨学金を受けることができたおかげで、無事大学を卒業することができました。

今私は日本の玄関である成田空港で、夢であったグランドスタッフとして毎日世界中のお客様と接しています。予想以上にいろいろなトラブルを抱えた方や、急な変更など難しい仕事ではありますが、だからこそやりがいを感じます。あの時助けてくださったさまざまな地域の方々に『おもてなし』という形で少しでもお役に立っていければ、と日々笑顔で努力をしています。

自然災害の被害者の力に

宮城県仙台市
2014年3月卒業
大庭 尚也さん



震災当時大学1年生で、東京に住んでいた私にとって幼い時を過ごした地元の街が津波に飲み込まれていく映像を見て、現実とは思えずにショックを受けたことを今でも鮮明に覚えています。体育会の部活に所属していたため、学費だけではなく部費や寮費、遠征費まで両親には経済的に大変な苦勞を掛けていました。そんな最中、震災によって実家が被災し全壊という状況になってしまい、どうしたらよいのか分からない中で三菱商事復興支援財団の奨学金の給付により大学も部活も続けることができました。本当に感謝し切れない気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

そんな経験もあり、現在は損害保険会社に就職し事故や自然災害によって被害を受けた方の力になる仕事をしています。自身が困った時に救われたように私も困っている人を助ける仕事がしたいと思っています！震災によって思い出のたくさん詰まった実家はなくなってしまいましたが、今では新しい家で新しく楽しい思い出をたくさんつくっています。そんなことができるのも当時いろいろな方からの助けがあったからだと思います。次は私がいろいろな形で恩返しをしていきたいと思っています。



小学校の入学式に実家の前で



「水を飲む者は井戸を掘った人を忘れない」



宮城県石巻市
2013年3月卒業
崔 中秋さん

2011年3月11日に私は東日本大震災に巻き込まれました後、三菱商事緊急支援（奨学金）を頂きまして、学業が継続可能になり、2016年3月に愛媛大学大学院連合農学研究科大学院後期課程（博士課程）を無事に卒業しました。現在、中国天津農業科学院農作物研究所に勤めてい

ます。社会の基盤である農業を守り、食料の安全性を守り、食を通じた日中の懸け橋となれる人材になるという日本留学の初心を忘れずに進みます。「水を飲む者は井戸を掘った人を忘れない」ということわざが昔からいわれてきていますが、私の「ありがたいと思う志」を私の心から消すことはできません。



中国での研究の現場



大学院時代の仲間と





お客さまの大切な資産を預かる仕事

宮城県多賀城市
2014年3月卒業
羽田 早百合さん

東日本大地震により被災し、実家は床上浸水となりました。当時、大学2年生で都内に下宿しており、年間の授業料や生活費など、多額の費用が掛かっていました。残りの大学生活を諦めかけていた矢先、三菱商事復興支援財団の奨学金制度を知りました。奨学金が頂けることになった時は、両親と電話口で、涙を流して喜び合いました。震災でお金の大切さを痛感し、大学卒業後は金融機関でリテール営業に従事しています。マーケットが日々変化する中、お客さまの命の次に大切なご資産をお預かりし、日々奮闘中です。あの時に頂いた奨学金がなければ今の私はありません。本当に感謝しています。今後も一人の金融パーソンとして、一人でも多くのお客さまにご資産を任せていただけるよう精進してまいります。



卒業式に同級生と



大学時代のサークルの引退公演



家族と共に生活できる喜び

福島県福島市
2015年3月卒業
吉野 京彦さん

三菱商事復興支援財団のご支援があり、無事に大学を卒業することができました。その後、アパレルの仕事に就き、店長という大役を頂戴しました。これまで故郷の福島県、北海道、東京の3店舗で店長職に就かせていただきました。

その後は縁あって美容業界に身を置き、練磨している日々です。仕事にもやりがいを感じています。仕事も次第

に慣れ、地元にいる母を東京に呼び、一緒に暮らすことができました。まだまだ養うとまではいえませんが、苦しい時期を乗り越えて、共に今生活できることを喜んでいます。これも三菱商事復興支援財団のご支援あつてのことであり、感謝の気持ちでいっぱいです。この身をもって恩返しができるよう努めてまいります。



社員旅行にて



卒業式、母親と共に



大学生時代

その人らしく、地域で暮らせるようお手伝い



宮城県石巻市
2013年3月卒業
鹿野 佐千子さん

介護福祉士として一度就職し、もっと深く人を支えられる保健師、看護師になりたいと思い、大学に入学しました。3年生の時、東日本大震災に遭い、石巻にある実家は全壊、塩害で農業ができなくなりました。お互いに農業の手伝いをし合っていた親戚を6人失い、そんなつらい中、毎日毎日避難所である中学校と自宅を往復し、自宅や広い農地の瓦礫の片付けをする両親の姿は忘れられません。26歳で学生をしていた私は、この先どうしていくべきか考えていた時、財団の奨学金の話をいただきました。そのおかげで、変わらぬ志を持ち続けることができ、無事に免許を取得できました。卒業後は、石巻赤十



病院の同僚と

字病院で勤務し、心臓を診る病棟で、いつ急変が起こるか緊張感を持ちながら、患者さんを看護してきました。一番大切にすることは、震災で心の傷を負った患者さんの話をじっくり聴くことです。患者さんが抱える問題を聞きながら、病は気からという言葉を信じ、前を向けるように関わりを持ってきました。その関わりの中で、人の優しさ、心の温かさ、人と人との付き合いの大切さを学びました。この4月から東松島市役所の職員として、地域に根差し、地域住民の皆さんに寄り添うことができる保健師を目指しています。これからも自分の志を持ち続け、精いっぱい頑張っていきます。



Facts & Figures

● 産業復興・雇用創出支援

岩手県

支 援 先	融 資 額 (百万円)
三浦商店 (岩手県洋野町)	20
長根商店 (岩手県洋野町)	30
ひろの屋 (岩手県洋野町)	12.5
たろう観光ホテル (岩手県宮古市)	40
ナカショク (岩手県大槌町)	40
伊藤商店 (岩手県大槌町)	50
宝来館 (岩手県釜石市)	20
海楽荘 (岩手県大船渡市)	50
森下水産 (岩手県大船渡市)	50
大洋産業 (岩手県大船渡市)	100
キャピタルホテル1000 (岩手県陸前高田市)	100
八木澤商店 (岩手県陸前高田市)	31
あんしん生活 (岩手県陸前高田市)	20
カメラマン・プロダクツサービス (岩手県陸前高田市)	30
KUMIKI PROJECT (紬 より変更) (岩手県陸前高田市)	5

宮城県

支 援 先	融 資 額 (百万円)
気仙沼地域エネルギー開発 (宮城県気仙沼市)	100
気仙沼産業センター (宮城県気仙沼市)	50
三陸飼料 (宮城県気仙沼市)	100
気仙沼ケーブルネットワーク (宮城県気仙沼市)	50
駅前ストアー (宮城県気仙沼市)	50
ヨシエイ加工 (宮城県気仙沼市)	60
協同水産 (宮城県気仙沼市)	20
サンフレッシュ小泉農園 (宮城県気仙沼市)	50
南三陸町社会福祉協議会 (宮城県南三陸町)	22
及川商店 (宮城県南三陸町)	50
及新 (宮城県南三陸町)	50
セッションナブル (宮城県女川町)	20
アイローカル (宮城県女川町)	2
浜人 (宮城県石巻市)	2
ヤマニシ (宮城県石巻市)	100
協働マネジメント (宮城県石巻市)	19
ラポールヘア・グループ (宮城県石巻市)	40
桃浦かき生産者 (宮城県石巻市)	30

支 援 先	融 資 額 (百万円)
大地フーズ (宮城県美里町)	10
村上商事 (宮城県塩竈市)	30
ゼライス (宮城県多賀城市)	50
アップルファーム (宮城県仙台市)	10
みちさき (宮城県仙台市)	100
仙台秋保醸造所 (宮城県仙台市)	50
GRA (宮城県山元町)	50

福島県

支 援 先	融 資 額 (百万円)
旭屋 (福島県相馬市)	50
あすびと福島 (南相馬ソーラー・アグリパークより変更) (福島県南相馬市)	30
相馬の里 (福島県南相馬市)	30
南相馬復興アグリ (福島県南相馬市)	50
小高ワーカーズベース (福島県南相馬市)	3
いちばん星 (福島県南相馬市)	10
会津中央乳業 (福島県会津坂下町)	12
IIE (福島県会津坂下町)	7
キャニオンワークス (福島県浪江町)	50
しらかわ五葉倶楽部 (福島県白河市)	50
什一屋 (福島県いわき市)	50

● 学生支援奨学金

年度	受給者数
2011年度	633名(約 7.6億円)
2012年度	1,072名(約12.9億円)
2013年度	996名(約12.0億円)
2014年度	994名(約11.9億円)
2015年度	666名(約 8.0億円)
2016年度	368名(約 3.1億円)
2017年度	155名(約 0.9億円)
累計	4,884名(約56億円)

● 復興支援助成金

年度	助成件数
2011年度	185件(約4.5億円)
2012年度	184件(約4.2億円)
2013年度	48件(約1.2億円)
2014年度	8件(約0.5億円)
累計	425件(約10億円)

2017年度
財務報告

貸借対照表

2018年3月31日現在

公益財団法人 三菱商事復興支援財団			
(単位:円)			
科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	37,426,493	62,792,080	△ 25,365,587
売掛金	4,603,392	1,661,472	2,941,920
未収入金	1,902,721	1,471,683	431,038
原料	645,200	639,584	5,616
副原料	554,347	605,351	△ 51,004
資材	873,671	2,397,959	△ 1,524,288
仕掛品	103,215,210	85,115,263	18,099,947
前払費用	2,404,246	2,591,804	△ 187,558
流動資産合計	151,625,280	157,275,196	△ 5,649,916
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
事業積立資産	383,107,460	434,466,089	△ 51,358,629
出資金	1,663,500,001	1,761,500,001	△ 98,000,000
長期貸付金	221,000,000	225,400,000	△ 4,400,000
敷金	1,621,880	1,621,880	0
建物	500,311,705	518,306,567	△ 17,994,862
機械・設備	108,807,825	118,987,090	△ 10,179,265
建物附属設備	141,061,755	153,113,378	△ 12,051,623
構築物	50,881,636	55,917,087	△ 5,035,451
什器備品	2,443,213	868,636	1,574,577
ソフトウェア	1,538,220	2,050,960	△ 512,740
商標権	1,727,494	1,934,782	△ 207,288
特定資産合計	3,076,001,189	3,274,166,470	△ 198,165,281
(3) その他固定資産			
建物附属設備	532,305	686,370	△ 154,065
什器備品	197,578	257,463	△ 59,885
敷金	15,500	15,500	0
保証金	80,000	0	80,000
長期未収収益	4,006,575	3,206,575	800,000
その他固定資産合計	4,831,958	4,165,908	666,050
固定資産合計	3,080,833,147	3,278,332,378	△ 197,499,231
資産合計	3,232,458,427	3,435,607,574	△ 203,149,147
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	508,904	4,152,628	△ 3,643,724
未払金	7,095,416	8,380,419	△ 1,285,003
流動負債合計	7,604,320	12,533,047	△ 4,928,727
負債合計	7,604,320	12,533,047	△ 4,928,727
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	3,181,289,617	3,362,924,627	△ 181,635,010
(うち特定資産への充当額)	3,076,001,189	3,274,166,470	△ 198,165,281
2. 一般正味財産	43,564,490	60,149,900	△ 16,585,410
正味財産合計	3,224,854,107	3,423,074,527	△ 198,220,420
負債及び正味財産合計	3,232,458,427	3,435,607,574	△ 203,149,147

三菱商事復興支援財団概要 2018年10月1日時点

名 称	公益財団法人 三菱商事復興支援財団
設立目的	東日本大震災において被災した地域の復興に寄与することを目的とする
事業内容	1. 奨学金の給付 2. 団体（NPO 法人や社会福祉法人など）に対する助成金の給付 3. その他、産業復興・雇用創出などに資する事業
役 員	会長 小林 健 （三菱商事 取締役会長） 副会長 榊田 雅和 （三菱商事 代表取締役 常務執行役員 コーポレート担当役員） 代表理事 胡摩ヶ野 洋 （三菱商事 総務部） 理事 足達 英一郎（日本総合研究所 理事） 大島 仁志 （公益財団法人 民際センター 理事） 西澤 正俊 （三菱総合研究所 元副社長） 評議員 末吉 竹二郎（国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問） 鬼頭 宏 （静岡県立大学学長） 菊地 清貴 （三菱商事 生活産業グループ CEO オフィス室長） 監事 野内 雄三 （三菱商事 主計部長） 藤間 秋男 （公認会計士）

サ イ ト <http://www.mitsubishicorp-foundation.org/>

所 在 地 〒100-8086 東京都千代田区丸の内2-3-1
03-3210-9770（代）
[郡山事務所]
〒963-8004 福島県郡山市中町1-22 郡山大同生命ビル10階
024-955-6011